

グラフとネットワーク 第2回
道と閉路：数理

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2017年4月17日

最終更新：2017年4月13日 14:48

スケジュール 後半 (予定)

- 8 彩色：数理 (6/19)
- 9 彩色：モデル化 (6/26)
 - * 休講 (出張) (7/3)
- 10 平面グラフ：数理 (7/10)
 - * 休講 (海の日) (7/17)
- 11 平面グラフ：モデル化 (7/24)
- 12 予備日 (たぶんやらない) (7/31)
 - 期末試験 (8/7)

注意：予定の変更もありうる

代表的なグラフ

目次

- 1 代表的なグラフ
- 2 部分グラフとしての道と閉路
- 3 グラフの連結性と連結成分
- 4 最大性論法による証明
- 5 今日のまとめ

代表的なグラフ

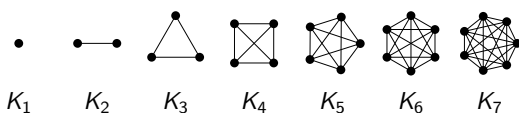
完全グラフ

無向グラフ $G = (V, E)$, 自然数 $n \in \mathbb{N}$

完全グラフとは？

G が完全グラフであるとは、 V のどの2頂点も辺で結ばれていること

頂点数 n の完全グラフを K_n と表記する



スケジュール 前半 (予定)

- 1 グラフの定義と次数：数理 (4/10)
- 2 道と閉路：数理 (4/17)
- 3 木：数理 (4/24)
- 4 マッチング：数理 (5/1)
- 5 マッチング：モデル化 (5/8)
- 6 最大流：数理 (5/15)
- 7 最大流：モデル化 (1) (5/22)
- 8 最大流：モデル化 (2) (5/29)
- 9 連結性：数理とモデル化 (6/5)
 - 中間試験 (6/12)

注意：予定の変更もありうる

概要

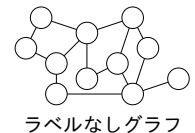
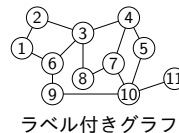
今日の目標

- ▶ 代表的なグラフの定義と記法を理解する
- ▶ 最大性論法による証明の手法を理解し、使えるようになる

代表的なグラフ

ラベル付きグラフとラベルなしグラフ

○の中に何も書かないときは、頂点が何であるのに興味がないとき



代表的なグラフ

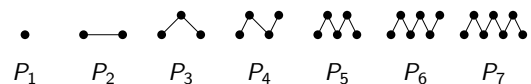
道 (パス, 路)

無向グラフ $G = (V, E)$, 自然数 $n \in \mathbb{N}$

道とは？

G が道であるとは、その頂点を1直線上に並べて、隣り合う頂点同士を辺で結ぶことによって得られること

頂点数 n の道を P_n と表記する



- ▶ P_n における次数1の頂点を P_n の端点と呼ぶ
- ▶ P_n は次数1の2頂点を結ぶ道とも呼ばれる
- ▶ P_n の辺数 $n-1$ のことを P_n の長さと呼ぶ

(演習問題)

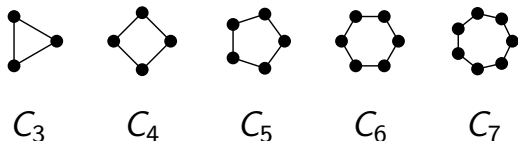
閉路 (サイクル)

無向グラフ $G = (V, E)$, 自然数 $n \in \mathbb{N}, n \geq 3$

閉路とは?

G が閉路であるとは, その頂点を同一円上に並べて, 隣り合う頂点同士を辺で結ぶことによって得られること

頂点数 n の閉路を C_n と表記する



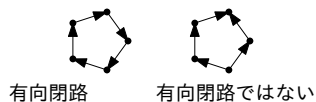
▶ C_n の辺数 n のことを C_n の長さと呼ぶ (演習問題)

有向閉路 (サイクル)

有向グラフ $G = (V, A)$, 自然数 $n \in \mathbb{N}$

有向閉路とは?

G が有向閉路であるとは, その頂点を同一円上に並べて, 隣り合う頂点同士を時計回りに弧で結ぶことによって得られること



▶ 弧数 n のことをその長さと呼ぶ
▶ 頂点数 1, 頂点数 2 の有向閉路もある

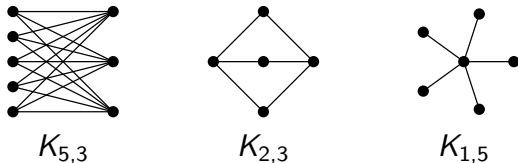
完全二部グラフ

無向グラフ $G = (V, E)$

完全二部グラフとは?

G が完全二部グラフであるとは,
▶ 頂点集合 V を 2 つの集合 A, B に分割できて
▶ 任意の $u \in A$ と $v \in B$ が辺で結ばれ, それ以外に辺がないもの

$|A| = m, |B| = n$ のとき, 対応する完全二部グラフを $K_{m,n}$ と表記する



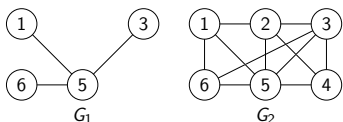
部分グラフ

無向グラフ $G_1 = (V_1, E_1), G_2 = (V_2, E_2)$

部分グラフとは?

G_1 が G_2 の部分グラフであるとは, 次を満たすこと

- ▶ $V_1 \subseteq V_2$
- ▶ $E_1 \subseteq E_2$



有向グラフの部分グラフも同様に定義

有向道 (パス)

有向グラフ $G = (V, A)$, 自然数 $n \in \mathbb{N}$

道とは?

G が有向道であるとは, その頂点を 1 直線上に並べて, 隣り合う頂点同士を異なる向きを持つ弧で結ぶことによって得られること



- ▶ 有向道における入次数 0 の頂点を始点, 出次数 0 の頂点を終点と呼ぶ
- ▶ 有向道は入次数 0 の頂点と出次数 0 の頂点を結ぶ
- ▶ 辺数 $n-1$ のことをその長さと呼ぶ

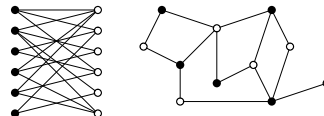
二部グラフ

無向グラフ $G = (V, E)$

二部グラフとは?

G が二部グラフであるとは,
▶ 頂点集合 V を 2 つの集合 A, B に分割できて
▶ どの辺 $e \in E$ も一端点を A に持ち, もう一端点を B に持つもの

二部グラフの例



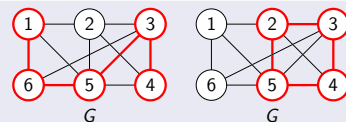
目次

- 1 代表的なグラフ
- 2 部分グラフとしての道と閉路
- 3 グラフの連結性と連結成分
- 4 最大性論法による証明
- 5 今日のまとめ

部分グラフとしての道と閉路

無向グラフ $G = (V, E)$ が道 (閉路) を部分グラフとして含むとき, その道 (閉路) の頂点を順に並べることで表現することがある

次の場合, 1, 6, 5, 3, 4 は G に含まれる道, 2, 3, 4, 5 は G に含まれる閉路



有向グラフに対しても同様

u から v へ至る道とは?

u から v へ至る道とは, u と v を端点とする道のこと

左上の例: 1 から 4 へ至る道

- ① 代表的なグラフ
- ② 部分グラフとしての道と閉路
- ③ グラフの連結性と連結成分
- ④ 最大性論法による証明
- ⑤ 今日のまとめ

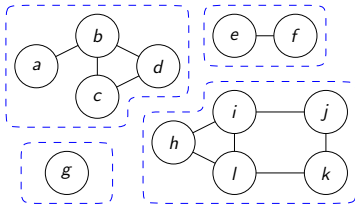
グラフの連結成分

無向グラフ $G = (V, E)$

グラフの連結成分とは？

G の連結成分とは、 G の極大連結部分グラフのこと

(「極大」とは、グラフの包含関係を半順序であるとみなしたときの「極大」)



連結成分の数 = 4

グラフの切断辺

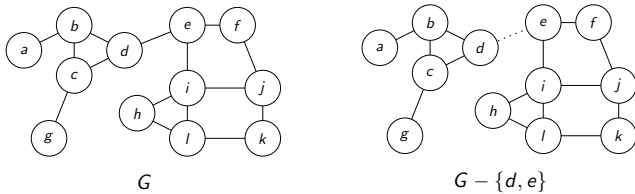
無向グラフ $G = (V, E)$, 辺 $e \in E$

グラフの切断辺とは？

e が G の切断辺であるとは、 G から e を除去したグラフ $G - e$ に対して次が成り立つこと

$$G - e \text{ の連結成分の数} > G \text{ の連結成分の数}$$

$\{d, e\}$ は G の切断辺



- ① 代表的なグラフ
- ② 部分グラフとしての道と閉路
- ③ グラフの連結性と連結成分
- ④ 最大性論法による証明
- ⑤ 今日のまとめ

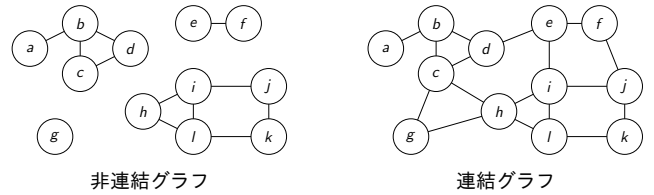
グラフの連結性

無向グラフ $G = (V, E)$

グラフが連結であるとは？

G が連結であるとは、任意の 2 頂点 $u, v \in V$ に対して、 u から v へ至る道が存在すること

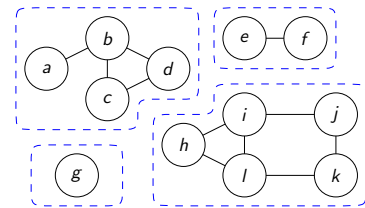
連結ではないグラフは非連結と呼ばれる



注：「グラフが連結している」とは言わない

グラフの孤立点

次数 0 の頂点を孤立点と呼ぶ



g は孤立点

グラフの切断点

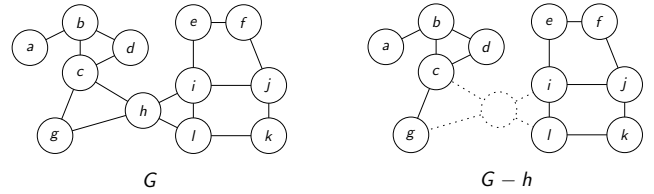
無向グラフ $G = (V, E)$, 頂点 $v \in V$

グラフの切断点とは？

v が G の切断点であるとは、 G から v を除去したグラフ $G - v$ に対して次が成り立つこと

$$G - v \text{ の連結成分の数} > G \text{ の連結成分の数}$$

h は G の切断点 (「 v を除去」とは、 v と v に接続する辺すべてを除去すること)



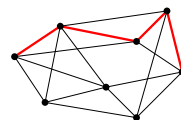
最小次数が大きいグラフは長い道を含む

無向グラフ $G = (V, E)$, 自然数 $k \in \mathbb{N}, k \geq 2$

最小次数が大きいグラフは長い道を含む

$$\delta(G) \geq k - 1 \Rightarrow G \text{ は } P_k \text{ を含む}$$

例： $k = 5$ の場合の例



格言

「自明に間違っていない」ことを常に確認する

証明の方針： G に含まれる長さ最大の道を考える

G に含まれる長さ最大の道を $P = v_1, v_2, \dots, v_\ell$ とする.

▶ このとき, $\ell \geq k$ であることを示せばよい.

▶ v_1 が P の端点であるとする.

▶ P が長さ最大の道であることから,

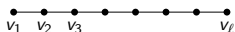
v_1 に隣接する頂点はすべて P の頂点である.

▶ したがって,

$$\ell - 1 = P \text{ における } v_1 \text{ 以外の頂点数} \geq \deg_G(v_1) \geq \delta(G) \geq k - 1.$$

▶ したがって, $\ell \geq k$. \square

イメージ図



最大性論法とは？

離散数学における重要な証明手法の1つ

- 1 ある性質を満たす部分集合で要素数最大のものを考える
- 2 その最大性を利用して, 証明を進める

コメント

- ▶ 「最小次数が大きいグラフは長い道を含む」の証明は最大性論法に基づく
- ▶ グラフの頂点数が有限であることから, 要素数最大の部分集合が存在することは確認できる
- ▶ 同様に「最小性論法」もある
- ▶ 他の例は後の演習問題と今後の講義の中で

目次

- 1 代表的なグラフ
- 2 部分グラフとしての道と閉路
- 3 グラフの連結性と連結成分
- 4 最大性論法による証明
- 5 今日のまとめ

今日の目標

- ▶ 代表的なグラフの定義と記法を理解する
- ▶ 最大性論法による証明の手法を理解し, 使えるようになる